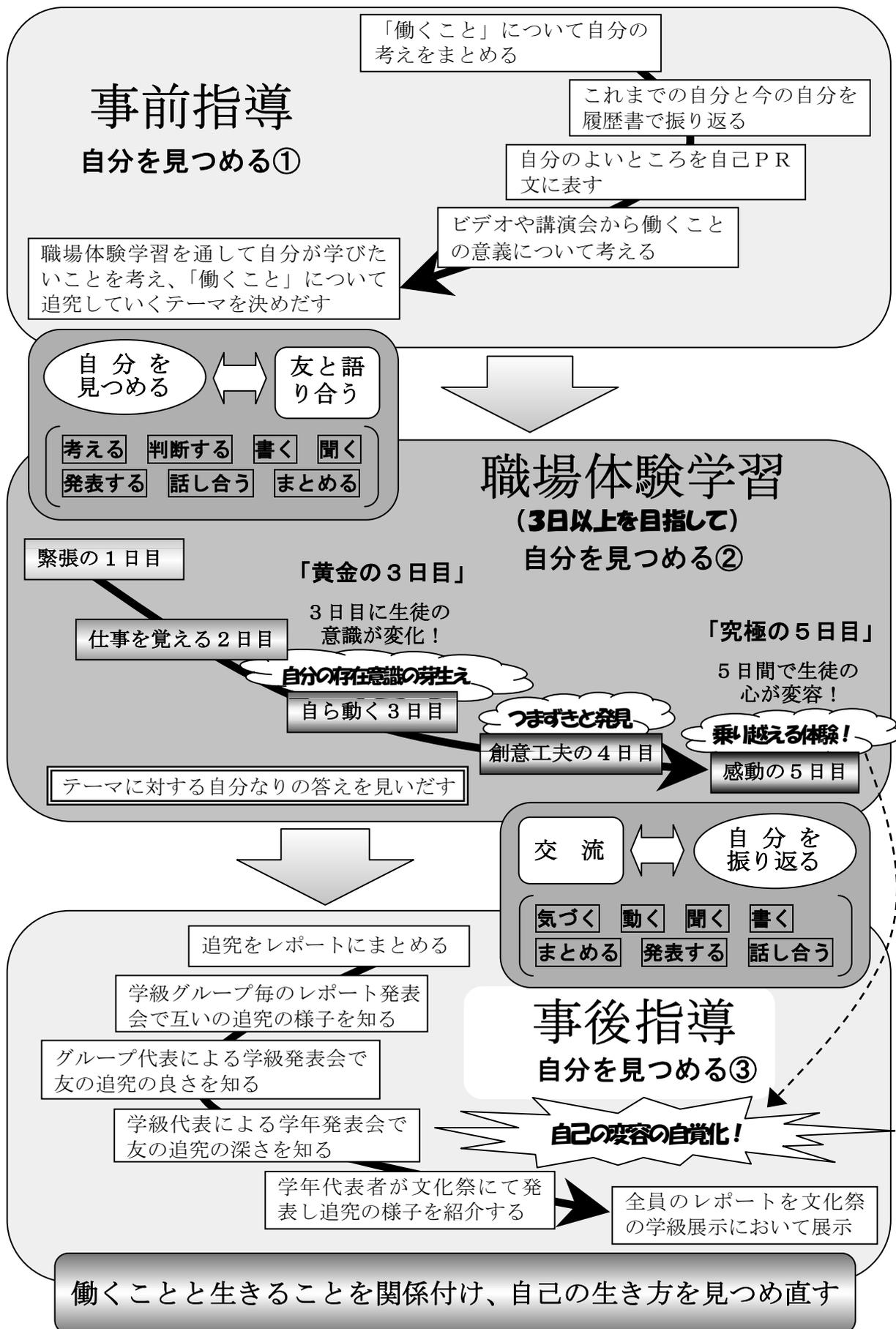


3 中学校において職場体験学習を中核とした指導事例



(1) 事前・事後指導を充実させた中学生の職場体験学習

職場体験学習を、一過性のイベントで終わらせるのではなく、生徒のキャリア発達を促す「学び」とするためには、事前指導と事後指導が大きな意味をもちます。その展開例を記します。



(2) 中学校の職場体験学習を中心とした事前・事後指導の事例

Aタイプ 毎年職場体験学習を行う事例①

○飯田市立飯田西中学校

飯田西中学校のキャリア教育の中心は、「西中チャレンジ Day チャレンジ Week」。1学年は1泊2日の農業宿泊体験や農家の方との交流、2学年は5日間の職場体験学習、3学年は2日間の林業体験、3日間の福祉体験学習に取り組み、3年間を通じて14日間の職業体験を行います。それぞれの学年の学習において、事前学習では自己課題を設定することを大切に、事後学習では振り返りを充実させ、学んだことをまとめ、各クラスで発表会を開く他、丸山小・飯田西中学校合同で「キャリア教育実践発表会」を行い、お互いの成果に学び合います。また、学習の成果を地域にも発信しています。

学年	1 学年	2 学年	3 学年
内容	農業体験学習 	職場体験学習 	地域貢献活動 
事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ○飯田市の農業の現状 ○千代・千栄地区等の農家の仕事 	<ul style="list-style-type: none"> ○「働くこと」の意味 ○職場でのマナー ○職場訪問 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域に生かされている私 ○飯田市の林業や福祉の抱える課題
チャレンジ Day	農業宿泊体験 (7月2日間) (飯田市千代・千栄地区) <ul style="list-style-type: none"> ・農家の方との交流 ・農業体験 	職場体験学習 (8月5日間) 西中チャレンジWeek (1日目) 職場に慣れる (2日目) 仕事内容を理解する (3日目) 仕事に慣れる (4日目) 自分なりに仕事のやり方を工夫する (5日目) 仕事の楽しさを実感する。	風越山での林業体験 (7月2日間) <ul style="list-style-type: none"> ・間伐体験 ・風越山にかかわる方との交流
チャレンジ Week	地元の農家の方との交流 (9月2日間) <ul style="list-style-type: none"> ・農業体験 ・農家の抱える課題 ・飯田市の農業 		福祉体験学習 (8月3日間) <ul style="list-style-type: none"> ・福祉体験 ・福祉の事業所で働く人との交流
事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ○働くことの苦労や喜び ○私にとって農業とは ○これからの農業 	<ul style="list-style-type: none"> ○「働く」とは ○5日間の私の成長 ○私の夢や希望 	<ul style="list-style-type: none"> ○ボランティアとは ○これからの私
地域への発信	かごこし学習実践発表会(キャリア教育実践発表会) (保護者 地域への公開) <ul style="list-style-type: none"> ・各学年の発表 ・ブース毎での交流 		
	「学校・学年だより」等での発信		

○西中チャレンジWeek（2学年の職場体験学習：夏休み中5日間実施）

① 事前学習におけるポイント「職場体験に向かう課題を明確にもたせる」

自己の生き方に関する主体的な意識を育むには、あらゆる場面において課題意識をもたせることが大切である。職場体験の事前学習としては、

- 「働くこと」の意味についての講演会
- マナー教室
- 昨年度体験した3年生の体験談を聞く
- 職場訪問

などの学習を行い、その上で職場体験に向かう課題を明確にさせ、体験に臨ませた。

② 振り返りの場の充実「自己を見つめること、自己を理解すること」

キャリア教育では、「自己理解」を大切にしている。職場体験では、「実習日誌」を活用し、毎日の自分の実習を見つめさせた。実習日誌の項目としては、

- 今日の実習を終えた感想
- 次回の課題
- 事業所の担当者からのコメント
- 保護者からのコメント

を入れ、その日の仕事ぶりを振り返らせる工夫をした。そして、実習後に

- 『働く』とは、「5日間の私の成長」、「私の夢や希望」について自分の考えをまとめた。

③ 事後学習の中での友との学び合い

友だちと体験の様子やその思いを語り合うことで、自分の体験した意味がより明確になってくる。体験後、班や学級でそれぞれ体験したことを報告し合う場を設けて、苦労したことや学んだことを聞き合い、お互いの職場体験を振り返らせた。その中で、

- 気がつかなかった自分自身の頑張り
- 自分自身のよさ
- 自分が成長したこと、職場体験の中で学んだこと
- 頑張ったこと、苦労したこと
- これからの生活の中で生かしたいこと
- 「働くとはどういうことか」という自分のなり答え
- 自分を支えてくれた方々（職場・家庭）への感謝 等

自分の体験や思いを語り、また友の発表からも学び、その成果をみんなで確かめ合った。

④ 小中合同キャリア教育実践発表会（かざこし学習実践発表会：11月下旬）

平成19年度より、飯田西中学校では全校でキャリア教育実践発表会を開いている。この発表会は、地域の方々や保護者にも公開している。平成23年度は、飯田西中学校全学年生徒と丸山小学校の6年生全員が参加した。学年ごとに体験学習で学んだことを発表し合い、みんなで成果を確かめ合う機会となった。

また、この発表会は、小学6年生が中学校生活へイメージをひろげ、中学校へスムーズに移行していく取組の支援プログラム「結い交流プログラム」としての位置付けもある。小学生が中学に向けて心の準備をするとともに、夢や憧れを描く場となっている。

◆全体会（代表生徒の発表）

- ・夏休みに行った「一日職場体験」の様子（丸山小学校）
- ・かざこし学習の中核活動である農業体験（1年）、職場体験（2年）、林業体験・福祉体験（3年）の発表（飯田西中学校）

◆交流会（約20グループ（小6～中3）に分かれて発表）

- ・各学年体験を振り返って学んだことの発表を行い、それについて意見交換を行う。
- ・小学6年生が中学校生活についての質問を行い、中学生が質問に答える。

松川中学校では、毎年5月の全校花摘み体験学習を1日間、1学年で3日間の保育体験学習、2学年で3日間の職場体験学習、3学年で3日間の福祉体験学習を行っています。1学年の保育体験学習は、2学年での職場体験学習へのつながりを意識し、人と接し、相手を理解していくことを大切にしました。さらに、体験学習から得たものを『どのようにこれからの生き方に生かしていくべきか』を自己検討する視点で行いました。

『松中サマートライやる!』（保育体験学習1学年）

1 概要

「相手の考えや立場を理解し、誠意をもって人に接する方法を学ぶ」という1学年の指導目標を立てて学び、2学年の職場体験学習につながる学習を展開した。

2 活動目標

- (1) 保育士や園児など異年齢の相手の考えや立場を理解し、誠意をもって人に接する方法を学ぶ。
[人間関係形成能力]
- (2) 学校・家庭を離れて活動することで、自分で判断し課題を解決する能力を養う。[意志決定能力]
- (3) 保育体験を通して、社会について理解と関心を高めると同時に、思いやりの心や奉仕の態度を身に付ける。「働く」ことについて理解を深め、「働く」ことを通して成り立つ社会への関心を高める。
[社会参画能力]

3 活動内容

夏休み中の3日間、通学区内の保育所で保育士の指導を受け、保育を体験し、園児や職員の方とともに活動する。

4 保育体験学習を通してつきたい力

- (1) 仲間が発する言葉や表現に応え、相手が納得できる行動をするなど、相手を意識した活動ができる。
- (2) 働くことの大切さに気づき、これからの自己の生き方を考えるきっかけを掴むことができる。
- (3) 常に自分の言動に注意し（あいさつや礼儀、マナーの徹底）、場に応じた言葉遣いや行動ができる。
- (4) 仲間の意見や考え方に共感し、寄り添うような言葉がけができ、仲間と協調し、共に活動する喜びを実感できる。
- (5) 素直な思いを自分の言葉で話し聞き合うことで、自他の良さ、感情を理解し尊重することができる。
- (6) 体験の振り返りから、自分の将来についてよく考え、社会において自分の果たすべき役割を自覚し、これからの自己成長や日常の生活に生かすことができる。

5 事前学習の題材展開と生徒の意識

事前学習を展開していく中で、生徒のもつ克服すべき課題（人見知りをして、自分の思いを上手に伝えられないこと、自分の思いを自分の言葉で伝えきれないということ）を、「松中サマートライやる!」で解消し、保育士や園児と積極的に関わろうとする姿が見られた。

(学習活動に時数がないものは1時間扱い、扱いはすべて総合的な学習の時間)

月	学習活動	内 容
6月	○「サマートライやる!」ガイダンス	「サマートライやる!」の意義や「サマートライやる!」の3年間の活動、保育体験の概要を知る。
	○自分の幼児期を振り返る	幼児期の姿を保護者や友から聞く中で、幼児期と比べて出来るようになったことや出来なくなったことを考える。
	○「サマートライやる!」保育体験で取り組む課題を決める	「サマートライやる!」の保育体験で自分が取り組む疑問や課題に合わせたグループ作りや課題について調べたり考えたりしたことをまとめる。 (園児との接し方、保育園の一日や仕事など)

	○調査活動	図書館での文献調査、保育士への聞き取り調査、インターネットによる調査を行う。
	○課題のまとめを発表する	グループごとのまとめをクラスに発表する。
7月	○講演会	町教育委員会子ども課保育所係長から、園児に適した遊びや、絵本の読み聞かせや手遊びなどについてお話を伺う。
	○体験施設の決定	第3希望までの中に収まるように調整。
	○保育体験への決意をもつ	3日間の体験で不安に思うことや、学んでおくべきことは何かを考え、来校いただく保育士に保育体験への決意や不安を全員が述べられるように、学級内で意見を出し合う。
	○保育園別打合せをする	保育園別に自己紹介、活動内容、日程心構えなどを担当学校職員と打ち合わせ会を開く。
	○自分の思いを深める	保育園ごとに1人1人がどのような思いをもって保育体験に臨むのか、友に話したり、話を聞いたりする中で、自分の思いを確かにする。
	○事前打ち合わせ会を行う (2時間)	各保育所の園長先生(主任先生)に来ていただき、自己紹介、活動内容、日程、心構えなどを確認する会をもつ。
夏休み中3日間 サマートライやる実施		

6 保育体験後の生徒の様子と事後学習の題材展開

(1) 保育体験後の生徒の様子

- 生徒は、保育士や園児と一緒に活動をする中で、職場体験することへの不安感が解消した。
- 「同じ目線」で考え、相手に伝わる言葉を使うなど、相手意識をもった活動にしていこうとした。
- 体験での自分の姿を振り返り、これから頑張りたいことや生かしていきたいことを考え始めた。

(2) 題材「保育体験を振り返って

ーお世話になった保育士に、自分たちの学習の成果を発表しようーの展開

- 自分のよさを再発見し、仲間・園児たちとそれぞれのよさを共有し、人とかわるよさを感じた生徒たちに、これからの生活や次年度の職場体験学習に生かしてほしいと願い、事後学習を設定した。

	学習活動	内 容
9月	○体験発表会を行う (学級で)	自分が体験してきたことの中で良かったことや、反省を具体的に語り合う。
	○体験発表会を行う (園ごとで)	保育士がこの保育体験で自分たちの姿にどのような感想をもっていたか知り、どうしてそのような感想をもっていたのか考える。
	○発表の内容や方法を考える	保育士に発表する内容を全員で話し合って考え、決める。
	○発表の準備と練習をする	グループ同士で発表し合い相手に伝わるように工夫する。
文化祭	○保育士の来校を意識した発表	文化祭の中での発表を保育士への発表の練習として位置付ける。
10月	○発表内容や方法の工夫、改善	発表の改善点を探って、練習する。
	○保育士を招待し、成果の発表	保育士の気持ちを考えた、自分たちの学習の成果を発表する。

(3) 授業者の振り返りから

A生の変化

「働くのは、自分がお金をもらって生活するため」と考えていたA生は、体験の中で「泣いている子や、けんかしている子の対処をすることがとても大変」だったが、「園児の笑顔を見ることが『やりがい』になった」と記した。保育士から「子どもが大きくなるとうれしくて、成長が楽しみ」であることを話してもらったA生は、(園児との)1日の中で大変なことやうれしいことがあって、まとめて『楽しかった』と思えた、だから働くことは、やりがいにつながると考えた。

友と深めるおもい

そして友の話を聞きながら発表内容を考える授業の中で、F生から「働くとは、ありがとうと言われること」と教えてもらった。A生はF生に「なぜそう考えるようになったのか」と聞くと、F生は、自分から積極的に話しかけられなかったこと、その中でも「ありがとう」と言ってもらえてうれしかったこと、言われたことで「もっと頑張ろう」という気持ちになったこと、「感謝される＝やりがい」となったことなどを話した。A生は、その話をもとに「働くとは、自分のやりがいを感じる。人に感謝される仕事をする」と、F生の考えを取り入れ、「働く」意味についての考えを深めた。

日常に生かす

さらに、次時において、これからの生活に生かしたいことを考える中で、A生は、「人を思いやれる大人になりたい」と目標を定めた。また、日常生活や友との関わりの中で、「ありがとう」という姿が増えたり、日頃多くを語り合わない友との会話を意識して増やそうとしたりする姿が見られるようになった。このように、体験学習で得たことや、仲間との関わりの中で発見したことが日常生活の中で生きるようになった。



泰阜中学校では、3日間の体験活動を行う「キャリアデー」を全校で設定し、3年間を通して「中学校段階からのキャリア形成」を目ざして進路指導を行っています。

- 1 学年 地域の職場を知り、職業を意識する初めてのキャリアデー（地域を知る）
- 2 学年 地域の人とのつながりを大事にし、福祉ボランティア精神の修養を大切にしたキャリアデー（地域にかかわる）
- 3 学年 視野を広くもち、将来の職業をより強く意識して取り組むキャリアデー（地域に発信する・貢献する）

1 「キャリアデー」の目的

- (1) 生徒が事業所など職場で働くことを通して、職業や仕事の実際に触れ、働くことに対する自己理解を深め、望ましい勤労観・職業観を育成する。
- (2) 働く人などと接して、コミュニケーション能力の向上を図る。
- (3) 集団生活に必要な規範意識や、マナー・協力・協調性など、社会の一員としての役割や責任が必要なことを自覚する。
- (4) 3日間、職場（部署）の中で、一人で活動することから、友だちに依存しない自立心を養う。
- (5) 地域や地元の事業所に対する理解を深め、地元への愛着や誇りをもつことができる。

2 学年別指導の重点と具体的な活動(キャリアデーの位置づけ)

	1 学年	2 学年	3 学年
指導の重点	進路に関する意欲や関心を高め、将来に対する夢や希望を豊かにするとともに、自己理解の必要性を知り、学校生活の中で自ら鍛え、自己実現を図り、進路学習の計画を立てることができる。	働く人の姿にふれたり、職業生活を体験することにより、広く情報を求め、環境・能力・適性等から自己を見つめ、課題を解決しながら目標に向かって次第に自己実現することができる。	高校調査や体験入学を通して、自己をさらに深く理解する中で、中学校卒業後の進路希望を具体的にもち、将来の生活に適する能力や態度を身に付けることができる。
具体的な活動	自己理解	自己啓発	自己実現
	私の将来① 自分を知ろう 地域の職場調べ (キャリアデー事業所)	私の将来② 自分をよく知ろう 地域の福祉について学ぼう (交流・キャリアデー準備)	自分の進路 自分の長所・短所 自分にあった職業・職種調べ 社会人となるために (キャリアデー準備)
	キ ャ リ ア デ ー		
	自分史づくり・発表 進路学習のまとめ	職業及び資格調べ 学校調べ 進路学習のまとめ	進路講話 高校で何を学ぶか 新しい生活に向けて

3 キャリアデーの実際

- (1) 期日 8月23日(火)～25日(木) 連続する3日間（「総合的な学習の時間」で設定）
 - *就業時間は各事業所の実情に合わせる。
 - *事業所によって、就業の時間・時間帯は違うが、学校の時間割の相当で1日6時間とみなし、3日間で18時間の授業時数とする。

(2) 依頼事業所

- 1年…泰阜保育所、学校給食調理場、教育委員会、阿南病院、JAみなみ信州、泰阜郵便局等
- 2年…やすおか荘、役場住民福祉課、阿南荘、社会福祉協議会、デイサービス等
- 3年…家電量販店、スポーツ用品店、レストラン、デイサービスセンター、飯田市立病院、農園等

(3) 支援委員会

- ・キャリアデーを推進するにあたり、支援委員会を組織する。
- ・村内や近隣を中心とした受入れ先事業所等の開拓や調整を中心に、本校のキャリアデー（職場体験学習）の成果があがるようにご援助・ご指導をいただく。

(4) キャリアデーの実施について

① 仕事の内容

- ・生徒は事前に「キャリアデー私の職場」を書き、職場、仕事内容、就業時間、服装等を確認する。
- ・休日や夏休みを利用して、事前に職場訪問をして、自分で詳細の打合せをする場合がある。

② 当日の動き

- ・通勤の方法は、村内はスクールバスを特別な経路で運行。1、2年生のほとんどが利用可能。3年生及び1、2年生の一部は保護者の送迎か公共交通機関での通勤。
- ・服装は、事業所から指示。ほころびがないか、汚れがないかなど、ふさわしい服装（清潔感）も確認。名札を着用。名札には、学年、氏名、学校の連絡先、担任携帯番号、保護者緊急連絡先を記入。
- ・就業中に具合が悪くなったりけがをしたりしたときには、職場から学校に連絡を入れていただく。担任あるいは他の職員が訪問するなどの対応をする。場合によっては、保護者の方に迎えをお願いする場合もある。

4 キャリアデーの振り返り

(1) 生徒の感想

僕は、泰阜村教育委員会で職場体験し、将来は人と接するような仕事に興味をもち始めました。なぜなら、教育委員会で働いて、人とふれあうことが楽しくなったからです。この事に気づかせてくれた教育委員会の皆さんにはとても感謝しています。また、ロードレースの準備は、いつも大会に出るだけだったけど、見えないところで教育委員会の皆さんがたいへんな準備をしている事がわかりました。こういう支える仕事のたいへんさがわかりました。～中略～ 今回の実習で学んだことを将来を決めるときの参考にしたいです。
(泰阜村教育委員会で実習 1年男子)

福祉の体験を通し、多くの事を学びました。元気な人は介助なんかいないけど、介助を必要としている人は、今までできた行動ができなくなってしまい、人の手を借りて生きていかなければいけないということが改めてわかりました。介助はたいへんなことですが、人の役に立っていると思うと、うれしいと思いました。たいへんな分だけ楽しいこともあり、「一生懸命がんばるぞ!!」という気持ちになりました。介助は自分を見つめられる一つの職場だと思いました。
(病院併設の介護老人保健施設で実習 2年女子)

3日間の貴重な学習により、働くときには「お客様を一番に考えて仕事をしなければいけない」ということを学びました。清掃では、よい気持ちでお買い求めいただくことを心掛けなければいけないし、挨拶は、「来店していただきありがとうございます」という感謝の気持ちを心掛けなければいけないという、仕事にとって大切なことを実感できました。サービス業で大切なことは、「よりよい商品を提供し、気持ちよく接待し、お客様に喜んでもらうことだ」ということを肌で感じることができました。この学習を将来へ生かしていけるよう、挨拶を心掛け、人とのつながりを大切にしていきたいです。
(飯田市のスポーツ用品店で実習 3年男子)

(2) 保護者の感想

- ・キャリアデーが1日だけでなく、3日間というのがとても良いことだと思います。
- ・1～3年を通して段階的に職場体験できるのは良いことだと思います。
- ・泰阜では日頃からボランティアでお世話になっていますが、やはり飯田市まで行くとやり方も違ったり、子ども達の個性も違ったりと、「新たな初めて」が色々あり、勉強になったと思います。(3年)

和田中学校の職場体験学習は、夏期休業中に3日間行います。2学年は8月初旬、商工業体験を中心に地元の各事業所で職場体験を行い、3学年は7月下旬、町内にある福祉施設での体験を行います。また、1、2学年共通で林業体験も1日行っています。職場体験学習で生徒に付けたい力を明確にし、「和田中学校支援地域本部」の組織の一つであるキャリア教育支援部が中心となり、学校、受入れ先事業所（地域）、家庭が共通理解を図り、協力して職場体験学習を進めています。事前学習の中で、和田地区の起業家の方の話を聞いたり、受入事業所や施設の担当者の方と事前打ち合わせ会・事後のまとめ（連絡会、文化祭への招待）を行ったりというところに特色があります。

1 職場体験学習でつけたい力

(1) 全校生徒に共通してつけたい力

- ①自分たちが生活する和田地域にある「職場」についてより深く知ることができる。
(事業内容・そこで働く人たちなど)
- ②「働く」ということの大切さや意義を学ぶ。
・「働く」とはこういうことなんだ(こういうことなのかな?)という手ごたえを自分なりに見つけることができる。
- ③異年齢の方々と「働く」という視点で交流することを通して、人間関係を築いていくことの大切さや勉強することの意味を改めて知ることができる。
- ④人との関わりの中から自分を見つめ、自分を理解することができる。
- ⑤自分の生き方を考えるきっかけをつかむことができる。



(2) 各学年でつけたい力

◆2学年〈商工業体験〉

- ・体験先の事業内容について大まかな事を知ることができる。
- ・お客さん（クライアント）や同じ職場で働く人との接し方（コミュニケーションのとり方）について初歩的な知識や技能を学ぶ。
- ・気遣い・心遣いを具体的な行動で示すことの大切さや、相手の立場に立って応答することの大切さを学ぶ。

◆3学年〈福祉体験〉

- ①体験先の事業内容について大まかな事を知ることができる。
- ②施設やサービスの利用者さん（クライアント）や同じ職場で働く人との接し方（コミュニケーションのとり方）について初歩的な知識や技能を学ぶ。
- ③気遣い・心遣いを具体的な行動で示すことの大切さや、相手の立場に立って応答することの大切さを学ぶ。
- ④高齢者の方々や障がいをもった方々を愛しく思い、優しく接することができるようになる。
〈高齢者や障がいをもった方々へのいたわり・思いやりの心の育成〉

2 地域との連携・・・(受入れ先の職場に「やってよかった」感をもっていただく)

- (1) 自分たちの事業内容（特色など）の再確認ができる。
○生徒に自分の職場や仕事内容を知ってもらわなければならないが、何をどうやって伝えていけば徒たちに分かってもらえるのか?・・・再学習（職場の活性化）
- (2) 生徒の育ちの確認ができる。
①生徒が毎日記入する「職場体験学習カード」の点検と担当者の方による評価（感想）の記載。学校では評価されない項目で生徒は評価され、とても勉強になる。
②職場体験学習で、実際に働く活動を通して、確実に生徒の意識に変化が起こる。その変化に着目して評価していただく。
- (3) 事業所がある地域（和田地区）に生活する生徒（和田中学校生徒）の実態を知ることができる。

3 家庭との連携・・・(家族との話題を広め、深める)

- (1) 夕飯時に職場体験について話題にし、家族それぞれの「仕事」について話をすることで、生徒の「職業観」(自分の個性や適性を見つけ、将来の生き方につなげる力)や「勤労観」(社会における自分の役割や責任を自覚する力)が育つ。⇒勉強などの「やる気」に直結し「学力の向上」につながる。
- (2) 職場体験をしてきた子どものお話を一生懸命聞く。

4 職場体験学習の事前・事後学習の充実

(1) 事前学習の特色

- ① **キャリア教育講座1 オリエンテーション** (2時間)
 - 今年度の職場体験学習について、ねらいと流れ、心構え等のオリエンテーション
 - 「ジョブカフェ信州」のキャリア教育アドバイザーの方を講師に、全校で「職業」について学習
- ② **キャリア教育講座2** (2時間)

○学年別に夏期休業中に行う職場体験の**事前打ち合わせ会**を開く。

〈2年〉講師：受入れ職場の各担当者

それぞれの事業所の企業アピールと基本的な社員教育について話していただく。

〈3年〉講師：受入れ施設の各担当者

それぞれの施設の概要を話していただき、ワークショップを行う。

- ③ **キャリア教育講座3** (2時間)

○和田地区の起業家の方を講師に、職業(仕事)とは・働くことの意義、和田で起業する理由や商品開発の大切なポイント、将来を担う若者たちに伝えたいこと、和田地域のよさ、職場体験時の仕事内容等の留意点についてお話していただき、職場体験学習へのねらいを明らかにする。*事業所のアピールもふくむ。

- ④ 職場へのアポイント取り、職場調べ、ワークシート記入他
- ⑤ 職場体験先への事前訪問 (2時間)
 - 生徒全員がそれぞれに体験予定先の職場に出向き打ち合わせを行う。
 - 挨拶・仕事の内容について担当者から話を聞く。



(2) 事後学習の特色

- ① ワークシート(夏休み中の活動のまとめ用冊子)へ記入し、担任へ提出
- ② お礼状の作成
- ③ **職場受入担当者会(事後連絡会)**

キャリア教育支援部の協力を得て、職場受入担当者会を行い、生徒一人ひとりの活動の様子を報告していただく。また、反省を踏まえて次年度の職場体験学習の進め方についての協議も行う。

- ④ 文化祭(黒耀祭)にて発表
 - パワーポイントによる全体発表を行う。地域の受入職場の方々を招待し、発表内容についての感想を述べていただき、成果や課題を共有する機会をもつことができる。



永明中学校では、2学年で実施した職場体験学習の経験をもとに、3学年の「1日総合」で、2回目の職場体験学習を設定しています。総合的な学習の時間にキャリア教育を設定し、実際に自分の生まれ育った地域で「ひと」「もの」「こと」に触れて体験することを通して、地域とのつながりが実感できるようにしています。特に3学年では、「地域の一員として、これからこの地域でどう生きていくのか、地域を更に豊かにしていくにはどうしたらいいか」について考え、行動していく資質を身につけたいと考えています。

1学年 「地域を知る」 2学年 「地域に出る」 3学年 「地域に生きる」

1 2学年 職場体験学習について

(1) ねらい

- ① 働くことの目的や意義を理解する。
- ② さまざまな職業があることを理解する。
- ③ 自己の個性・適性に対する認識を深め、それと職業との関係を理解する。
- ④ 多様な生き方に触れ、自らの生き方を主体的に追求する態度を身に付ける。
- ⑤ 地域社会の文化に触れ、地域の良さを再認識する。
- ⑥ 発表学習を通して体験をまとめ、説明できる能力を身に付ける。

(2) 学習の流れ (27時間扱い 学年合同16時間、学級11時間)

月	学 習 活 動	学年	学級
5	・学年ガイダンス (活動のスケジュール)	1時間	
6	・職業調べ (2時間) ・調べた内容について班を作りまとめる (3時間)		9時間
	・学級発表会 (2時間) ・職業の分類 (1時間) ・中間まとめ (1時間)		
	・体験先の決定 (職種別グループ) (1時間) ・事前の調べ学習 (3時間)	4時間	
	・職種別グループ編成 ・アポイントメント取り等		個別活動
7	・職場体験活動のマナー等の確認 (心構え、訪問について、訪問後のお礼や礼儀、体験日誌、報告書の作り方等) (1時間) ・訪問計画書作り (2時間)	3時間	
	・体験先との連絡		個別活動
8	<div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">職場体験学習</div> <夏休み中の2日間、日時を指定して実施> ・体験日誌の記入 ・体験報告書作成		
	・お礼状の作成 (2時間)		2時間
9	・レポート作成、発表準備 (4時間)	6時間	
	・発表会 (2時間) <学年集会・文化祭>		
	・活動のまとめ (2時間)	2時間	

(3) 評価の観点

- ① 生徒が主体的に体験学習へ参加し、意欲的な発表ができたか
- ② 仕事への関心をもち、自らの将来について考えるようになったか
- ③ 体験したことを適切な表現で伝えることができたか

2 3学年 職場体験学習について

(1) 推進日程

- ① 体験場所の希望調査 6月2日(木)～3日(金)
ねらいを達成するために、自分はどんな体験をしたいかを考え、「職場体験場所」を決定。
- ② 事業所との打ち合わせ 6月6日(月)～10日(金)
時間・具体的な体験内容(担当職員・生徒それぞれに事前打ち合わせ)
- ③ 1日総合当日 6月15日(水)
計画に沿って、実際にひと・もの・ことに関わって活動をする。ひとやものとの出会いから、地域とのつながりについて考える。

④ 振り返り

- ・自分が地域に生きていることを自覚し、地域に支えられていることに気づく。
- ・活動の中から実態を知り、さらに自分たちにできることを追究していく。

(2) 職場体験学習の実際（学級活動例）

	保育園交流	バリアフリーマップ	諏訪中央病院	ボランティア活動
目的地	ちの保育園	学校及び茅野駅周辺	諏訪中央病院	永明寺山
活動内容	保育園児との交流	茅野駅周辺 バリアフリー調査	職場体験	永明寺山ゴミ拾い
日程	ちの保育園集合 8:00 解散 16:00	学校集合 9:00 茅野駅周辺調査 9:30～12:00 昼食（学校・茅野駅周辺） 12:00～13:00 茅野駅周辺調査及び バリアフリーマップ作り （学校） 13:00～16:00 学校解散 16:00	諏訪中央病院集合 8:50 解散 15:00	（学校集合 8:30） 永明寺山入口集合 9:00 ゴミ拾い活動 9:00～12:00 昼食 12:00～13:00 ゴミ拾い活動 13:00～14:00 永明寺山出発 14:00 学校着解散 15:00

3 生徒の振り返り

私たち、中学2年生の総合のテーマは「地域に出る」でした。私は中大塩保育園で体験させていただくことになりました。保育園は大切な子どもたちの命をあずかる場です。難しいことをお手伝いする訳ではありませんが、とても神経を遣うことでした。でも、園児たちに癒されたり、笑ったり、園児と同じ視点に立つことは、今まで当たり前だと思っていたことに新しい発見があり、とても新鮮でした。私がこの体験を通してわかったことは、両親や周りの先生方の私たちへの気持ちです。自分が先生の立場になって改めて、「園児たちには怪我をしてほしくないし、自分を大切にしてほしい。」と思いました。多分、両親や先生方も同じ気持ちだと思います。 ～中略～

まだ私は、保育園の先生や大人の人たちと同じように働くことはできません。しかし、「地域に出る」ときに大事なことは、町で買い物をしたときには店員さんにきちんとお礼を言ったり、地域の人とすれ違ったときにきちんと挨拶をしたりすることだと思います。保育園の園児だけでなく、少しでも誰かを幸せな気持ちにして、その人が笑顔になれるような行動をしていきたいです。

私が職場体験をした老人ホームには、100歳になるおばあさんがいました。自分の足では上手に歩けず、人の手がないと歩けない状態でした。しかし、私たちの顔を見ると、明るい笑顔を見せてくれました。私はその笑顔に元気をもらいました。そのことから、いつも笑顔で楽しくしていれば、周りには自然と明るくなることを学びました。自分もいつも明るくしたいと思いました。 ～中略～

これから進路決定に向けて、決してあきらめずに、前向きに勉強していきたいと思いました。苦しいこと、悲しいこと、つらいことがあってもいつも「笑顔」を忘れずに、友だち、家族、先生と生活していきたいです。

今回、老人ホームで職場体験したことで、細かい気配りや自分から動くことができるようになりました。このことをクラスや部活動、地域などで生かしていきたいです。

飯田東中学校では、2学年において前期2日間、後期2日間の職場体験学習を行っています。「自分がどんな人間であるのか自己理解すること」・「働くこと」・「学ぶこと」の意味を考えることを学習の目的としています。事前学習においては、講演会の際にとった「メモ」をもとにお礼状を書くことから自己課題をもつこと、事後学習においては、職場体験学習のまとめのポスター作成、それを仲間と共有するためのポスターセッションを行うことで、職場体験学習の「学び」を高めています。

社会につながる ところを磨く — “自分” と向き合う4日間の挑戦—

飯田東中学校2学年では、以下のような目的と計画で、職場体験学習を「総合的な学習の時間」に位置付け実践しています。

1 学習の目的

- (1) 「自分とは、どんな個性をもった人間なのか？」を知ること・わかること
- (2) 「働くこと」・「学ぶこと」の意味を考えること

2 学習の方法

(1) 合計4日間の職場体験学習

7月13日(火)～14日(水)(2日間)：8時間を基本とする

8月19日(木)～20日(金)(2日間)：8時間を基本とする

※合計32時間の職場体験をすることになる。

- ・職場体験日誌づくり(体験の内容や自分の思いの記録を残す)
- ・勤務先の方からの「勤務評価」(社会の厳しさや温かさにふれる評価)

(2) 職場体験学習の準備学習

- ・職場体験先の決定：5月下旬
- ・職場へのアポイントメント(約束)取りと職場訪問：6月下旬
- ・職場・職業調査とレポート作成(「働くこと」の意味を知る)：6月～7月(3時間)
- ・履歴書作成と送付(「自分の個性」を知る)：7月初旬(2時間)

(3) 職場体験学習の事後学習

- ・職場体験後の振り返り(2回)、職場体験先へのお礼状執筆(2回送付)
- ・職場体験日誌をもとにした、ポスターづくり(「自分の個性」がわかる)：9月(4時間)
- ・ポスターを用いた発表会(ポスターセッション)：10月(2時間)
- ・ポスターの学芸会・郡展覧会での展示：10月～11月

3 学習の留意点

- (1) 職場体験先は、必ずしも「自分が将来なりたい職業」である必要はない。一番大事なのは、「自分の個性を知ること・わかること」であり、どの職場で体験しても、必ず学ぶものがある。
- (2) 「書くこと」をおろそかにしないこと。「書くこと」は学習の基本。
- (3) 体験と体験の「間(ま)」を大切にする。(2)によって、体験を経験に高める。

※体験は個人的・個別的なもの、経験は共通性や普遍性を帯びたもので、他者に語れる状態になったもの。

4 事前・事後学習の実際

(1) 事前学習におけるキャリア教育講演会

生涯学習・スポーツ課の仲介で、JAみなみ信州の方によるキャリア教育講演会を開催した。「メモを取ることを意識づけた上で、「メモを元にしてお礼状を書くこと」を行い、講演のどの部分に自分のはっとさせられたのかを自覚させるようにした。

講演後のお礼状の中でI生は、

「私が印象に残ったのは、『仕事の意味に疑問をもつ』ということです。確かに、これを常に心の中において仕事をすれば、仕事の『やりがい』や『楽しさ』『大変さ』などがわかるんじゃないかと思いました。私は、職場体験で保育園に行きます。この体験の中で、今日勉強した『疑問をもつ』ということをしてながら、この仕事の『責任の大きさ』などを学んできたいと思っています。」

と職場体験学習のめあてを記述した。

その後、合計4日間の体験を経て、I生がまとめた職場体験まとめポスターには、自分にとっての体験の意味が次のように記されている。

「私が先生方の姿から学んだことは、自分の仕事をしっかりこなしながらも、周りをきちんと見て、気働きをしていたこと、先生方の中で連携がよくとれていたことです。当たり前のようにしている先生方の行動は、私にはまだまだできませんでした。できるかな?とっていたことが意外とできず、びっくりしました。この体験で学んだ『周りを見る・気働きをする』は、部活やこれからの生活に必要なことです。簡単にできることではないけど、学んだことを生かして努力したいです。」

事前学習の講演会の中でつかんだ「仕事の意味に疑問をもつ」をI生が常にもち続けていたことで、園児との関わりに目が行きがちな生徒が多い保育所・幼稚園での体験が、周りを見ながら気働きのある仕事に努める保育士の姿に気づくという、質的に高まりある学びになったことが、このまとめから伺える。こうした豊かな学びを支えたのは、体験と体験の「間」において、「書くこと」(実習日誌やお礼状の記入など)による振り返りを重視したことではないかと考える。

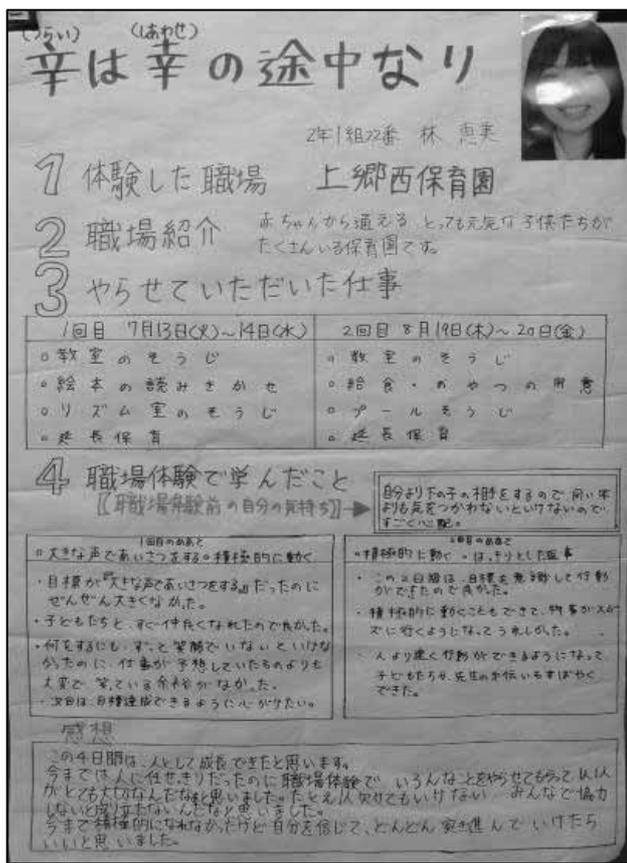


(2) 職場体験まとめポスターの作成とポスターセッションの意味

合計4日間の職場体験後、①体験中に書きためた実習日誌、②学校で事後に書いたふりかえりカード、③お礼状の下書きなどをもとに、職場体験まとめポスターを作成した。作成にあたっては、A3判の下書き用紙に草稿を記入し、担任・副担任による査読・指導の後、模造紙半分大の用紙に清書した(左写真参照)。ポスターの題名は、学んだことをキャッチフレーズ化したものにするよう指導した。H生は、ポスターの最後をこう締めくくっている。

「この4日間は、人として成長できたと思います。今まで人に任せっきりだったけど、職場体験を通じて『1人1人がとても大切。たとえ1人欠けてもいけない、みんなで協力しないと成り立たない』と思いました。自分を信じて、どんどん突き進んでいけたらいいと思いました」。

自分にとっての体験の意味を、確かにつかんでいることが伺える。また、このポスターに記述された学びを共有化するために、学年内でポスターセッションを行った。生徒は、自分と仲間の体験間の個別性と共通性を感じ取り、職場体験を「学び」に高めることができた。



ポスターセッションの様子



文化祭でのポスターの展示

学年の廊下には、職員が撮影した職場体験の写真を全員分掲示し、学習へむかう雰囲気を高めた。



高遠中学校では、2学年で6月から7月初旬にかけて前期2日間、10月の下旬に後期3日間の職場体験学習を行っています。前期2日間の職場体験学習の体験を生かして、さらに「働くことの意義や喜び」「人間関係づくりの重要性」、「その職業の社会的必要性」などについてより深く学ぶことができるように、後期3日間の体験学習を設定しています。後期の職場体験学習では、事業所へのお願いから実際の実習まで、前期よりワンランク上の充実した体験学習を目指し、保護者と相談して自分で実習事業所を探して、職場体験学習を行います。

1 高遠中学校におけるキャリア教育のとらえ

「キャリア」とは、人が生涯にわたって遂行する様々な立場や役割の連鎖及びその過程における自己と働くこととの関連付けや価値付けの累積を意味する。このキャリア概念に基づき、生徒一人一人が自分の職業観や勤労観を高めていくために「キャリア」の発達を支援していくことが今日のキャリア教育に求められている。それぞれにふさわしいキャリアを形成していくことができるよう、必要な意欲や態度・能力を育てる教育を進めていくことが重要である。

本校では「キャリア教育」を「生徒一人一人の勤労観、職業観を育てる教育」ととらえ、積極的にこれを推進する。

2 キャリア教育の目標

(1) 高遠中学校キャリア教育の目標

「一人一人が自己の適性や能力を発見し、主体的に進路選択できる生徒の育成」
個々の生徒が、職場体験学習等の具体的な体験活動を通して、自己の適性や能力の可能性に気づき働くことの価値観を高める。また、将来の生き方（在り方）を職業と関連付けて考えることができる。

(2) 2学年キャリア教育の具体目標

- ① 他との関わりを積極的に行い、自己の適性や能力の可能性に気づく。
- ② 働くことの価値観を高め、自己にとって有益な進路を自己決定できる。
- ③ 進路情報を的確にとらえ、自己の進路に生かす。
- ④ 将来の職業や自己の立場・役割について考え、将来の具体的設計を立てることができる。

3 キャリア教育推進計画

(1) キャリア教育の日常化

(2) 道徳、特別活動、総合的な学習の時間

- ① 自己理解、個性・適性の理解
構成的グループエンカウンター、道徳、適性検査など
- ② 職業理解
職業調べなど
- ③ 生き方を学ぶ
生き方講演会、先輩に学ぶ など
- ④ コミュニケーション力の向上

(3) 学力の向上

(4) 職場体験学習

- ① 対象学年 2学年
- ② 前期2日間、後期3日間、合計5日間の職場体験学習を行う。
- ③ 実施期間 前期：6月下旬～7月初旬 後期：10月下旬
- ④ 前期職場体験学習の特徴
 - ・「伊那市キャリア教育推進委員会」事務局が、受入れ可能事業所を開拓し、リストを作成する。それに基づいて、生徒・保護者へ事業所を紹介し実施する。

⑤ 後期職場体験学習の特徴

- ・生徒と保護者で相談をして、体験学習を受け入れていただける事業所を決め、依頼して実施する。

(5) 進路学習

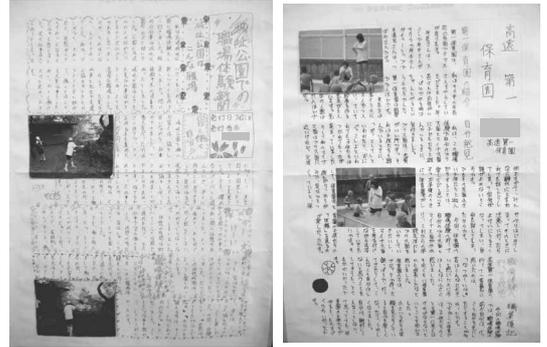
4 職場体験学習について

(1) 前期職場体験学習

- ① 「伊那市キャリア教育推進委員会」で開拓した職場での体験を通して、働くことの意義、人間関係づくりの重要性、社会的必要性等を体感する。
- ② 前期職場体験学習のまとめとして行うこと

- 「前期職場体験学習まとめ」の用紙を用いて、自分が体験学習によって学んだことや、自分の将来について現在考えていることを記入して、体験学習を振り返る。
- お世話になった事業所の方へお礼の手紙を書き、感謝の気持ちを表す。
- 「職場体験新聞」を作成し、自分が行った体験や職場についてPRする。(文化祭で展示)

<職場体験新聞>



(2) 後期職場体験学習

後期職場体験学習では、前期2日間の体験をもとに、事業所へのお願いから実際の実習まで、前期よりワンランク上の充実した体験学習を目指す。保護者と相談し、自分で実習事業所を探す。

- ① 前期の体験をもとに、生徒自身が、自分の興味・関心、適性などを考慮し、働いてみたい仕事・職場の候補をいくつかあげ、生徒と保護者で相談をして、保護者がお願いできそうな事業所を決める。(事業所への依頼は、生徒・保護者が行う。)
- ② 後期職場体験学習で配慮すること
 - ア 後期は前期と異なる職種で働くことを前提とする。そのことで、今まで気づかなかった自分の適性や能力を発見させたい。
 - イ 場合によっては前期と同じ職場になることもあり得るが、期間をおいて働くことで、成長した自分の姿を見返す機会としたい。
 - ウ 前期の体験を生かして、より深く次のことが学べる体験としたい。
働くことの意義や喜び 人間関係づくりの重要性 その職業の社会的必要性

③ 推進手順

- 生徒・保護者が事業所へ受け入れをお願いし、内諾をいただく。
 - ・事業所が決まり次第、「希望事業所 調査カード」を担任に提出する。
- 各事業所に学校からの正式依頼書を届ける。必要に応じ、生徒が届ける前に学校から連絡を取る。
 - ・自ら事業所を訪れてお願いをするとともに、事前の打ち合わせの日程等を決める。
 - ・複数の生徒が同じ事業所で実習を行う場合には、相手方の都合を考慮し、生徒同士お互いに連絡をとりあい、同一日に揃って事業所に行くようにする。
- 事業所との事前打ち合わせ
 - ・実習にかかわる準備や留意事項等打ち合わせを行う。事業所によっては、電話だけでよいという場合もあるが、なるべく実習先に出かけて様子を見た上で、実習当日に生かせるようにする。
- 事業所との直前確認
 - ・直前に連絡を取り合い、変更事項がないかどうかを確認するとともに、改めてお願いをする。
- 後期職場体験学習
 - ・職場体験学習が終了し次第、反省・感想をまとめ、事業所へのお礼状を書く。

波田中学校では、2学年で5日間の職場体験学習を『キャリアスタートウィーク』と位置付けて行っています。キャリアスタートウィークは、豊かな感性で自らの生き方を求める生徒の育成を目指した学習です。キャリアスタートウィーク実行委員会の地域の皆さんに支えられて、実施しています。

『キャリアスタートウィーク』（職場体験学習2学年・8月下旬、1・3年生は通常授業）

1 概要

「今を大切にし、将来を切り拓く」「人との関わりから自らの生き方を求める」ために、5日間連続の職場体験学習を中核に、キャリア教育のカリキュラム開発をし、働くことの意義や価値、自分のありようを見直して社会とのつながりを考えていく学習を展開した。

2 活動目標（キャリアスタートウィークの教育的効果）

<生徒にとって>

- ・自己理解の深まり、自己の再発見
- ・社会や労働への意欲付け、自己の生き方を考える
- ・異世代とのコミュニケーションの深まり
- ・社会のルールやマナーの習得
- ・地域や事業所への理解の深まりと郷土を思う心の育成

<地域・事業所にとって>

- ・次世代を担う人材の育成
- ・企業の社会的役割の具現化、企業価値の向上
- ・職場の活性化
- ・地域ぐるみで子どもを育てる気運の向上

期待される様々な効果（キャリア教育を学校教育の中核にすえて）

- 「ふるさと波田に学び、豊かな感性で自らの生き方を求める生徒」を目指す。
- キャリアカウンセリングを通して、かけがえのない存在としての自分に気づき、他者を尊重する姿勢を養う。
- 自尊感情の高まりを大切に活動を通して、自己肯定間が高まり、将来における勤労や職業観の醸成につなげることができる。

<家庭・保護者にとって>

- ・家族の役割の再確認
- ・働くことや将来についての家庭の話題

<学校にとって>

- ・教育活動の見直し、教師の意識改革
- ・一人一人のよさや可能性、個性の再発見
- ・地域や事業所等への理解の深まり

3 活動内容

- (1) キャリアスタートウィーク実行委員会…この学習の意義、計画、受入企業の調整や実習生徒の決定、学習の進め方の指針の提示、町の教育委員会事務局、商工会議所が学校と協力して生徒が自ら関わっていきける主体的な体験活動になるための支援。
- (2) 学校…自ら関わる5日間の職場実習の体験で自分の気持ちやどのように変化したか振り返ることを通して、「人間は一人で生きているのではない」社会性に気づき、働くことの意義や目的などの職業観・勤労観を養う学習の展開。

4 キャリアスタートウィークにおける生徒の学びから

(1) 事前学習

① 生徒による事業所訪問

～やらされる職場実習から、生徒自らが関わっていく職場実習～

○生徒が地区内の全ての企業への依頼状を配布した。

② キャリア教育講演会

—職場の方の働く中で大切にしている生き方にふれた講演—

○「私たちはあなたたちを子ども扱いしないし、実習に行っても中学生だからといって許されない」

「職場におけるコミュニケーションの大切さ」など体験に基づいた話を聞いた。

<キャリアスタートウィーク実行委員会の構成>

商工会議所役員、JA支所長等役員、PTA会長、地域づくり課、小中学校長教頭、該当学年副主任、町教育委員会教育長、教育課長等

<PR活動の実際>

- ①のぼり旗設置、事業所へのタペストリー掲示（町で予算化）
- ②広告用ポスターの作成、電車の車両広告としての掲示
- ③CATVでのCM放送、町広報誌への掲載

私にはどういう仕事に向いているのかも全く分からないけれど、講師の先生が言っていた「自分自身も、他人も知らない私」という未知なる窓を開けられるような5日間にしたい。(生徒の講演会後の感想より)

- ③ 夏休み期間の事業所の方との打合せ —働いておられる方の生き方に学ぶために—
 - 「このキャリアスタートウィークを通して何を大切に学びたいのか」を明確にした。
 - 周囲の人との関わりや支えてくれる人への感謝の気持ちで実習に向かう意欲をもった。
- ④ キャリアスタートウィーク実行委員会の関わり
 - 普段中学生と接することの少ない町民の理解を図ったり、生徒が地域の担い手であるという意識付けを行ったりするための活動をした。

(2) 事後学習 (キャリアスタートウィークを終えて)

- ① キャリアカウンセリング —体験学習の学びをもとに働くことの意義や価値について考える—
 - 5日間の実習日誌に見る「働くことの意味や目的」の変化

- ・「働くことはお金のため、働くことは楽しいから」と書いた実習前
- ・「お客さんと笑顔で接することが難しかった」と悩んだ3日目
- ・「お客さんにしっかり挨拶ができるようになってきた。とてもうれしかった」と充実してきた5日目
- ・「毎日当たり前のように働いている家族の苦勞が分かった」と考え、家族への感謝の気持ちを抱いた実習後

○5日間という長い日数の実習を通して、「実習のどんな場面で」「自分の中のどのような気持ちが」「どう変化したのか」などの視点から、生徒がもった「自分には一体どのような仕事に向いているのだろう」という疑問をもとに自分を見つめる事後指導につなげる。

- ②事後学習の実際 —「自分が仕事をする上で、最も大切にしたいことは何か」について考える—
 - グループで、学習問題について話し合った後の生徒の発表

H生：誇りをもてる仕事が一番だと思う。自分が行った農家の人は、自分の仕事に誇りをもっていて、とてもかっこよかったから。

H生は、普段あまり積極的な行動をとる生徒ではなかった。グループの話し合い活動では、彼は自分の大切にしたい価値観である「誇り」を語った。そこには自分の経験に基づいた、自信のような迫力さえ感じられた。また、周囲の生徒は、「自分に向いている」や「収入」をあげていたが、まとめの段階で、彼の意見を取り入れ、「自分に向いていて、誇りが持てる仕事」と価値観を共有する場面が見られた。5日間の体験を通して、大切にしたい価値観を、自分の言葉として語れるように変容している。

U生：私はお金だと思います。お金がないと生きていけないし、自分のやりたいこともできない。他の人を支えなくてはいけないときは、もっとお金の問題が大事になってくると思う。

「収入」についても、「自分以外の誰かを支えなければいけない」「お金を稼ぐことは本当に大変で、生きることは厳しい」という意識からあがってきていて、根底には、自分のために毎日働いてくれる家族への感謝の気持ちがある。体験したことをもとに、働くことに対する意義や目的について考えさせたことは、生徒が「人間は一人で生きているのではない」社会性に気づき、働くことの意義や目的など、職業観・勤労観を養う上で大変有効だったと言える。

○意識が変化してきた地域の方々—キャリアスタートウィーク受入事業所の感想より

<受け入れた事業所の方の感想>

○俗に「3日坊主」ということわざがあります。入る方も受け入れる方も大変ですが、3日を越えることに意義があると思います。生徒さんも初日、2日目は大変緊張したようでしたが、それで終われば「仕事は辛いこと」で終わったことでしょう。しかし、3日目頃から大きな声も出るようになり、また仕事をやり遂げる喜びを知ったことがこちらにも伝わってきました。(中略)「仕事は辛抱が大切」と分かってくれたことが大変うれしく、また今回の体験学習の中で、一番意義があることではなかったろうかと思っております。

○私たちが、子どもたちを知ることが大切。地域で子どもを育てると言いながら、子どもに声もかけていないし、注意もしていない。5日一緒に過ごす子どもたちに愛着がわいてくる。今回のような機会はとても大切だし、今後も続けて欲しい。